



## 校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ深け橋通信

第22号 令和4年1月31日

小美玉市立美野里中学校

### 改めて「やり抜く力」「レジリエンス」を意識する

前号に続き、「改めて」ですが、第7号と第10号で考えた「やり抜く力」「レジリエンス」を、特に3年生に意識してほしいと思います。

3年生は、今、私立高校の合格発表が大方終わり、悲喜交々の時期です。夏休み前には、遠い未来だったように思えた現実が、今、目の前にあります。人間その場になってみないと味わえない思いがあるものです。

もちろんよい結果が出た人は、油断しないで県立高校受験に駒を進めてほしいと思いますが、思うような結果が出なかった人も、まだ戦いは終わったわけではありません。決して投げ出さないことです。立ち直るのです。そして、やり抜くのです。



「やり抜く力 GRIT」とは、

Guts（度胸）：困難なことに立ち向かう

Resilience（復元力）：失敗しても諦めず  
に続ける

Initiative（自発性）：自分で目標を見据  
える

Tenacity（執念）：最後までやり遂げる  
の頭文字をとったものでした。

その中の「レジリエンス（resilience）」  
とは、「立ち直る力、回復力」です。



今こそこれを思い返してください。

勝負に臨む人は、諦めてしまったらそこでゲームセットです。実力以上の力など発揮できるはずがありません。

成功のイメージを強くもって、自分を奮い立たせるのです。私は、受験の時に、まだ入学もしていないその学校の校門まで休みの日に行き、入学後の自分をイメージしました。

そして、他者との比較で生まれるプレッシャーを回避するために、人と点数を比べるのではなく、合格できる総得点を設定し、それをクリアすることに注意を傾けました。それをクリアしさえすればよいのですから、受験は自分との戦いになりました。

傾向をつかむのも大切なことです。やみくもに勉強するのではなく、どんな問題を解けるようになればよいのかを探りました。

また、ノートは何冊もつぶすまで、書いて、書いて、書きまくって覚えました。「手は第2の脳」という人もいますが、何度も繰り返していれば、不思議と漢字でもスペルでも手が覚えているものです。

いずれにしても、時間は有限です。やれるときは今しかありません。やるべきことをやらなければ、後になって残るのは後悔だけです。

今こそ「やり抜く」ときです。「回復」してリベンジするときです。気持ちを強くもって、自分自身で切り開いてください。